

録されている。北海道では渡島半島がその分布域 方に多く、白神山地の原生林が世界自然遺産に登 緯度地方に広く分布する。日本のブナ林は東北地 で黒松内低地帯はその北限になる。 ブナは温帯の代表的樹種として世界の北半球中

92・43haの林だが、この他に白井川保護林、 機にさらされたりしたが、幸いにまぬがれて保存 けた。太平洋戦争末期と戦後の一時期に伐採の危 ツバメの沢保護林、添別町有林などがあり、さら 函館本線黒松内駅の南東約4㎞に位置する面積 された。天然記念物に指定されているのはJR 林は1928(昭和3)年に天然記念物指定を受 に近隣の狩場山、 黒松内低地帯の最大のブナ群落である歌才ブナ 大平山などにもブナ林がみられ

この林のブナの最大胸高直径は136㎝で、推定 ミズナラ、イタヤカエデ、シラカンバ、ハリギリ、 ナの優占度が低く(全体の6割程度)、シナノキ 樹齢250年に達する。 キハダ、ヤチダモ、ウダイカンバなどが混交する。 歌才ブナ林は、ブナの分布北限の特徴としてブ

ジシダ、シラネワラビ、クジャクシダ、クサソテ ミヤマガマズミ、ナツハゼ、オオバスノキ、ツル シキミ、クマイザサなどがみられる。ジュウモン ユミ、ハナヒリノキ、ホツツジ、オオカメノキ 林の下にはハイイヌガヤ、エゾユズリハ、コマ

> 地帯を越えないか? もっと北のほうでも可能だ。では、なぜ黒松内低 以上の数値を合算したもの)からはブナの生育は 数(月平均気温のうち、植物の生長に有効な5度 件は温度だが、成長期間の温度条件を示す温量指 ついてはいろいろな議論がある。温潤な気候下に 別町有林ではギンリョウソウがことに目に付く。 ツ、メシダ、シシガシラなどの羊歯類も多い。添 ある日本において、植物の生育を左右する第一条 なぜ、ブナがこのあたりを北限としているかに

日本で唯一のビジターセンター

がある。 グラーブナ、テリハブナおよびナガエブナが ブナが、ヨーロッパと英国南部にはヨーロッ 日本にはブナとイヌブナおよびタケシマブナ 分布する。台湾にはタイワンブナが、そして パブナが、また、中国にはチェンブナ、エン アメリカ大陸にはアメリカブナとメキシコ

二)の木臺、是ぶな多きが故に名づく。後ろ、 黒松内への経路を「右にスツツベツ(寿都 記録で有名な『東蝦夷日誌』で、長万部から 幕末の探検家・松浦武四郎は、その克明な 左黒松内川を眺め々下りて風栗(ピラ